

指導展開例 自然災害から身を守るために—自助・共助・公助—を理解する授業	中学校
	第2学年
	保健体育

1 教科・学年 保健体育（保健分野） 第2学年

2 単元名・題材名 単元：「傷害の防止」 題材：「自然災害から身を守るために」

### 3 授業の位置付け

日常生活では、誰もが事故や自然災害に巻き込まれて、けがをしたり命を落としたりする危険性がある。生活の安全は国や自治体が社会的な政策を行ったり、個人が安全に行動したりすることによって成り立っている。

危険を予測することができれば、事故や災害などを防いだり、被害を最小限に抑えたりすることができる。また、けがをした人や病気で倒れた人がいたときに、応急手当の仕方を知っていたら、けがの悪化を防いだり、命を救ったりすることができる。本授業では、「自然災害から身を守るために」、「地震防災マップ」を活用し、自分たちの住んでいる地域を踏まえ、自助・共助について考えることで生徒の防災意識を育むことができる。

### 4 単元の目標

- (1) 自然災害による傷害を防止するには、日頃から災害時の安全確保に備えておくこと、災害発生時には情報を把握するとともに、状況を正しく判断し、冷静・迅速・安全に行動することが必要であることを理解できるようにする。
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

### 5 本時の目標

既習の知識を活用しながら、資料などを用いて、自助で行うこと、自分の住んでいる地域で行える共助について考察し、表現できるようにする。

## 6 本時の展開

	生徒の学習活動	教師のかかわり
事象への働きかけ	<p>1. 今年、学校で行った防災の取組を思い出す。</p> <p>2. 「災害用補助備蓄品」の中身をグループで確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「避難訓練」、「緊急地震速報訓練」、「命を守る講演会」等の答えを思い出すことができるよう促す。</li> <li>・災害用トイレの使い方を説明する。</li> </ul>
課題把握・設定	<p>3. 自然災害が起きたとき、自助として、何ができるか考える。</p> <p>4. 資料を基に共助の視点から考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の住んでいる地域をみて、共助として何ができるだろうか。 【キーワード：人、建物、もの、時間】</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を配布し、課題設定につなげる</li> </ul>
課題追究	<p>5. グループ内での話し合いを基本に、資料を活用しながら、グループとしての考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜机間指導をして生徒の取り組み状況を観察・助言を行う。</li> </ul>
課題解決	<p>6. 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで考えた共助の内容についてマップを使いながら発表する。</li> </ul> <p>7. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時には、自助・共助・公助が互いに連携し一体となることで、被害を最小限にできるとともに、早期の復旧・復興につながることを説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表生徒のサポートをする。</li> <li>・必要に応じて補足説明。</li> <li>・公助の具体的な取組の説明。</li> </ul>

### セルフチェック 1 (興味・関心、疑問をもてる)

「災害用補助備蓄品・セーフボックス」の中身を見て興味・関心をもたせる。

### セルフチェック 2 (意欲が持続する)

「自然災害から身を守るために」、「地震防災マップ」を見てできること・すべきことのイメージを掴ませる。

### セルフチェック 4 (協働して活動)

1 グループでの役割分担（司会・ワークシート記入・地図にマーク・発表）を適切に行うことで、各自が課題解決に向かえるように配慮する。

### セルフチェック 5 (多面的・多角的に追究)

グループの意見を拾って紹介したり、教員から別の視点の考えも提示したりし、生徒が多角的に考察できるようにする。

## 7 実施のポイント

(1) 本時の授業の準備について

- ① 事前に同じ地域に住んでいるグループを作っておく。
- ② ゼンリン住宅地図（自分たちの住んでいる地域）をグループ分用意する。
- ③ SAFE BOX（帰宅支援セット ・ 7年保存水 ・ エマージェンシークッキー ・ 災害用トイレ ・ アルミ保温シート）をグループ分用意する。
- ④ 学校備蓄品（アルファ化米、災害救助用クラッカー等を見せられるよう準備しておきたい。）



## 8 資料

○ワークシート

**自然災害から身を守るために**

組 番 名前

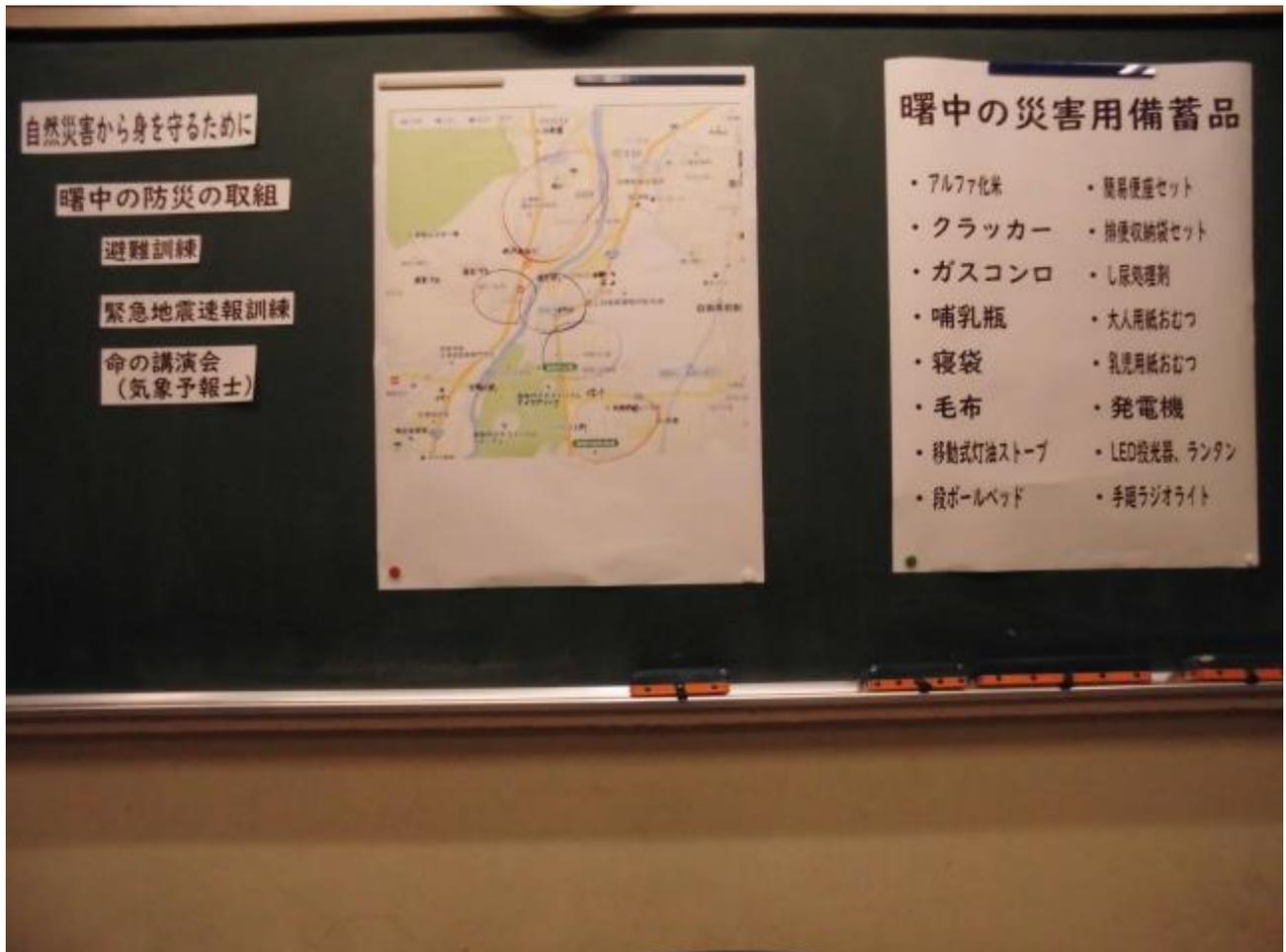
<自ら取り組む「自助」>自助として自分ができること、すべきこと、取組


<地域で、皆で協力して取り組む「共助」>

人（誰に）：
もの（何を、何を使って）：
建物（どんな施設、何階建て）：
時間（いつ、災害発生時間）：

<授業の感想>


## 9 板書計画



自然災害から身を守るために

—自助・共助・公助—

- 自助→自分自身や家族の命と財産を守るために自分で家族で取り組むこと
- 共助→近所や地域の方々と助け合うこと
- 公助→役所、消防、警察、自衛隊による公的な支援

自助として

できること

すべきこと

取組

を考えよう

# 自助

- ・食料、水、日用品の備蓄
- ・家具、テレビなどの転倒落下
- ・家族同士、災害時の安否確認の伝達手段の確保

# 自分たちの住んでいる (真駒内)地区の特色

- 山、川がある
- 公園(自然)が多い
- お年寄りが多い

共助として何ができるか  
グループで考えよう

キーワード

・人 ・もの ・建物 ・時間

# 発表の仕方(代表者1人)

- 地図に太字で○を付ける
- 前を向いて大きな声で
- 何も持たない

# 共助

- 近所の助け合い
- 小さい子ども、高齢者、障がい者の支援
- 地域の防災訓練

# 大規模災害時の 「公助の限界」

平常時であれば、事故や少々の被害でも、行政は対応できる。しかし、災害時は人員や救急車などの数に対し、負傷者が多く出るため、負傷者全員に対し、同時に救出・救護することは大変困難となる。

